

コード	302020801
記入日	H24.6.8

課コード	110
課名	福祉長寿課
課長名	峯脇 泉
担当者	浦田 三喜男

# 事業評価表【途中評価】

作成年度	平成 24 年度
------	----------

評価対象事業名称	社会福祉協議会補助事業
----------	-------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	3	政策名称	誰もが安心できる保健・医療・福祉の充実	款コード	3
施策コード	302	施策名称	協力し支えあう地域福祉の推進	項コード	1
基本事業コード	30202	基本事業名称	地域福祉推進体制の整備	目コード	1
事務事業コード	3020208	事務事業名称	社会福祉協議会事業費	細目コード	206
関連計画		法令・条例規則等	社会福祉法、新上五島町社会福祉法人等の助成に関する条例		

## 計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 社会福祉法人新上五島町社会福祉協議会 (対象2)		(対象指標1) 1法人 (対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	・町民の社会福祉の向上のための活動している社会福祉協議会の法人運営事業に対し、補助を行った。 (主な事業) →社協運営費補助 →地域福祉活動事業補助 →心配事相談所事業補助 →ボランティアセンター活動事業補助 →福祉輸送事業補助	***** 補助金交付件数	***** 1件	***** 100%	***** 補助金交付件数÷ 補助金交付予定件数	***** 平成23年度
		① (達成率分析)	計画どおり補助金を交付した。			
		② (達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
・社会福祉協議会が制度本来の地域に暮らす高齢者や障害者、母子家庭等が安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の実現等という目的に沿って、社会福祉協議会が行う各種の福祉サービスなど様々な活動が円滑に、また、安定的に運営できるよう、その活動費の一部として町が補助金を交付する。		***** 参加者数	***** 99,739人	***** 110.8%	***** 延べ参加者数÷ 前年度参加者数	***** 平成23年度
		① (達成率分析)	町受託事業、介護保険事業、障害者自立支援事業、その他の地域福祉事業を行い、利用者は前年度より増加した。			
		② (達成率分析)				

## 実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		22年度以前	23年度		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 件	7	7	6	1	1					
	②										
成果指標	① 人	595,379	605,118	505,379	90,000	99,739					
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	508,710	508,710	435,708	73,002	73,002					
直接事業費 A	千円	500,310	500,310	428,708	71,602	71,602					
人件費 B	千円	8,400	8,400	7,000	1,400	1,400					
内訳	従事職員数	人	1.2	1.2	1.0	0.2					
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	508,710	508,710	435,708	73,002	73,002					

**評価 ( CHECK )**

※理由の欄は必ず記載すること。

<b>1次評価</b>	<b>妥当性</b>	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズなどを考慮しても、事業を継続する必要がありますか。	● ある ● ない	<b>理由</b>	高齢化が著しい本町において、サービスが多様化している今日、益々、社会福祉協議会の存在が必要不可欠なものとなっている。町の社会福祉事業と連携している部分も多くあり、今後も共同して事業行っていく必要がある。
	<b>有効性</b>	・現在の事業の進め方は、期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	<b>理由</b>	高齢化の著しい本町において、益々、社会福祉協議会が行っている各種の福祉サービスなど様々な活動が円滑に、また安定的に運営できるよう、交付している有効な補助金なので、成果は出ている。
		・事業の成果をさらに向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	<b>理由</b>	事業の性質上、成果を向上させる余地はない。
	<b>効率性</b>	・現在の事業は、費用や業務量に見合った活動結果が得られていますか。	● いる ● いない	<b>理由</b>	町民の福祉の増進を図るための各種福祉事業を行っていて充分成果は出ている。
・より少ない費用や業務量で必要な活動結果が得られる手法に代えられませんか。		● 代えられる ● 代えられない	<b>理由</b>	社会福祉法に基づき設置された営利を目的としない事業者なので難しい。	

**改善 ( ACTION )**

<b>1次評価</b>	前回の途中評価における「改善策」と「その反映状況」	特になし。
	今後、課題に向けた改善策	特になし。

<b>2次評価</b>	社会福祉の向上に向け社会福祉協議会との連携は欠くことができない。そのためにも当該団体の運営を補助し、更なる福祉の増進を図る必要がある。今後も指導・助言は行っていくも補助金の交付にあたっては交付基準に従い適正に執行すること。
-------------	---

<b>3次評価</b>	住民等の意見
<b>町の対応</b>	

<b>今後の事業の方向性</b>	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
				このまま事業を継続				類似事業と整理統合
	●	●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。